



森林面積及び森林蓄積

森林面積は県総面積の76.8%



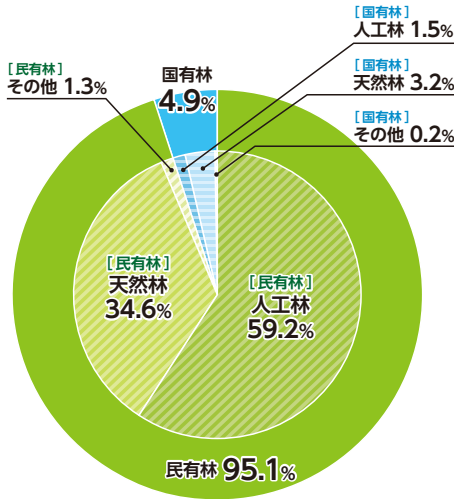
2023(R5)年4月1日現在の県の森林面積は、28万3千haで、県総面積の76.8%を占め、その95.1%が民有林、4.9%が国有林となっています。また、森林蓄積は、8,225万m³で、その96.5%を民有林が占め、3.5%が国有林となっています。

森林面積のうち民有林と国有林を合わせてみると、人工林が60.7%、天然林が37.8%を占めています。また、森林蓄積は人工林が78.3%、天然林が21.7%を占めています。

●森林蓄積…森林を構成する木の体積。

森林面積 (2023 (R5) 年4月1日現在)

資料：県森と人の共生推進課



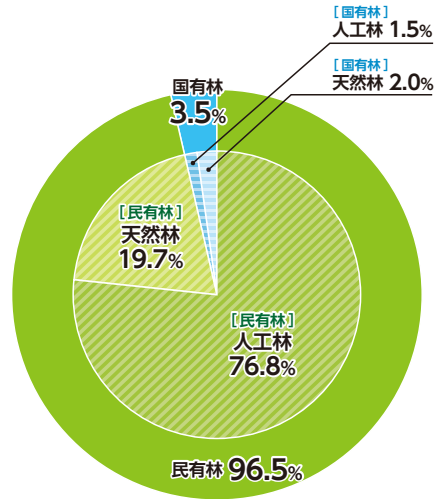
森林面積

28万3千ha

県総面積の76.8%

森林蓄積 (2023 (R5) 年4月1日現在)

資料：県森と人の共生推進課



森林蓄積

8,225万m³



市町村別森林面積

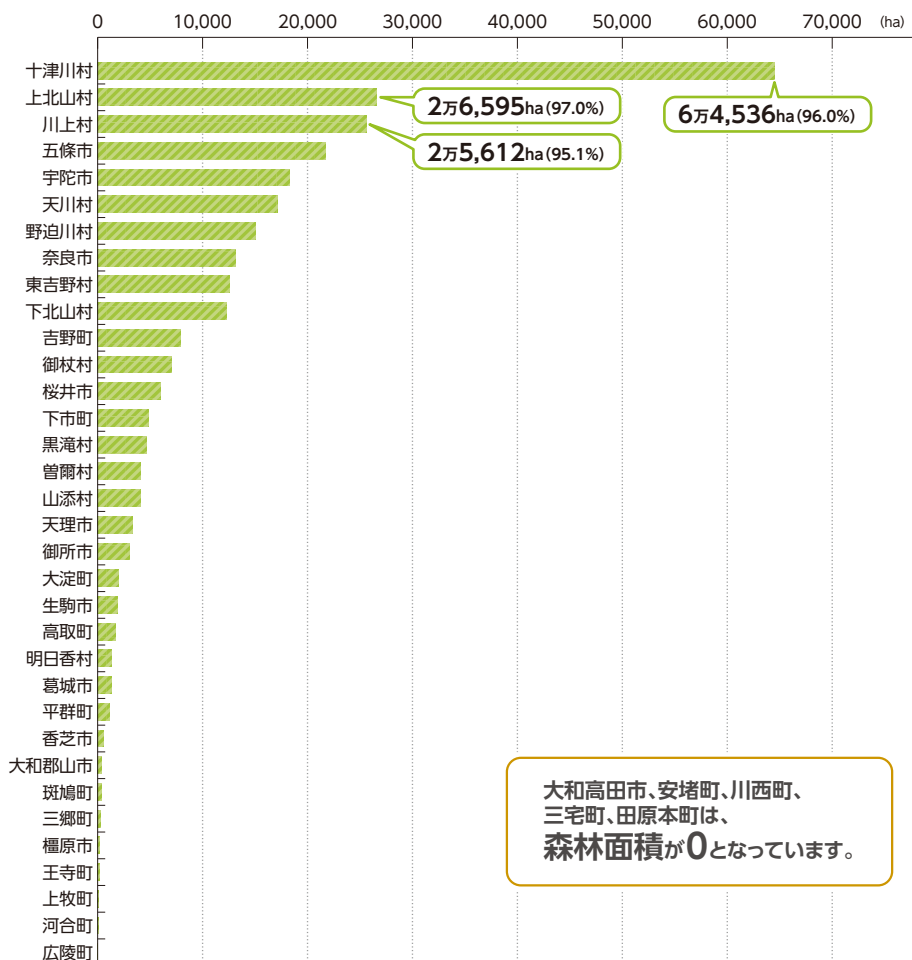
森林面積の最大は十津川村 面積ゼロは5市町



森林面積の1位は十津川村6万4,536ha(村面積に占める割合96.0%)、2位は上北山村2万6,595ha(同97.0%)、3位は川上村2万5,612ha(同95.1%)です。

市町村別森林面積(2023(R5)年4月1日現在)

資料: 県森と人の共生推進課



大和高田市、安堵町、川西町、三宅町、田原本町は、森林面積が0となっています。



主要部門別素材生産量

素材生産量は17万m³



素材生産量は、1962(S37)年では103万8千m³でしたが、2021(R3)年は17万m³で約6分の1になっています。

近年の素材生産量について、2013(H25)年から2017(H29)年までは増加傾向にありましたが、2018(H30)年に減少し、以降はおおむね横ばいとなっています。

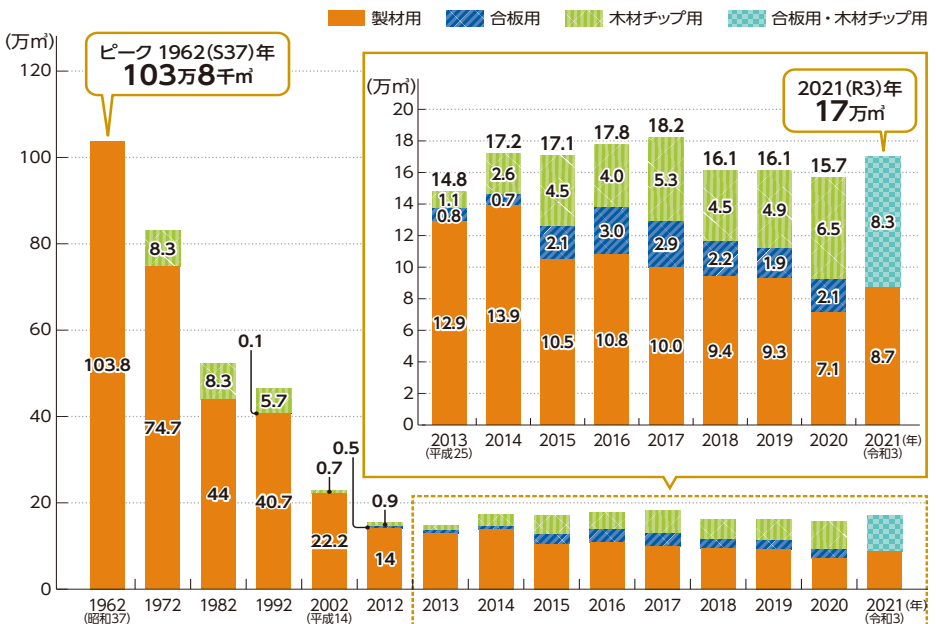
素材生産量の主なものは製材用で、2021(R3)年では8万7千m³で全体の51.2%を占めています。素材生産量を2013(H25)年と比較すると、製材用は12万9千m³から8万7千m³と減少傾向にあります。

一方で合板用と木材チップ用の合計値は1万9千m³から8万3千m³と増加傾向にあり、およそ4倍となっています。

- **素 材**…山に生えている木を切って枝を切り払ったり、同じ長さで切りそろえたりして丸太にしたもの。
- **製 材**…素材(丸太)を鋸挽きした木材製品。主に柱や板など建築に用いられる。
- **木材チップ**…木材を切削または破碎した小片。主に紙および木質ボードの原料や燃料に用いられる。

主要部門別素材生産量の推移

資料：林野庁「木材統計」、県奈良の木ブランド課



※ 製材用、合板用は県独自調査により木材統計調査の数値を補正。2015(H27)年以降、木材チップ用は県独自調査によりバイオマス材の数値を含む。2021(R3)年については、林野庁「木材統計」において合板用と木材チップ用の数値が非公表のため、合計値のみ表示している。



間伐面積

間伐面積は、間伐材の生産活動が控えられたことにより減少



2022(R4)年度における間伐面積は2,349haとなっています。

間伐面積は、木材価格が前年度と比較して下がったことなどにより、利用間伐が控えられ、前年度に比べ330ha減少しました。

●**間伐**…育成段階にある森林において、樹木の混み具合に応じ育成する樹木の一部を伐採(間引き)し、残存木の成長を促進する作業。

間伐面積の推移

資料：県森林資源生産課

